

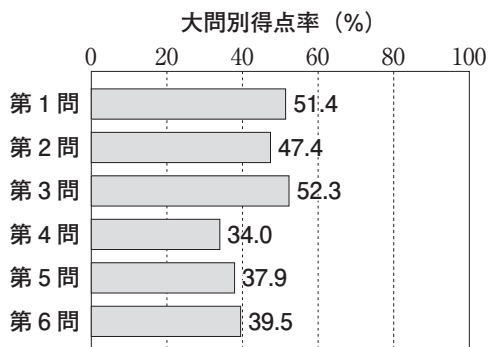
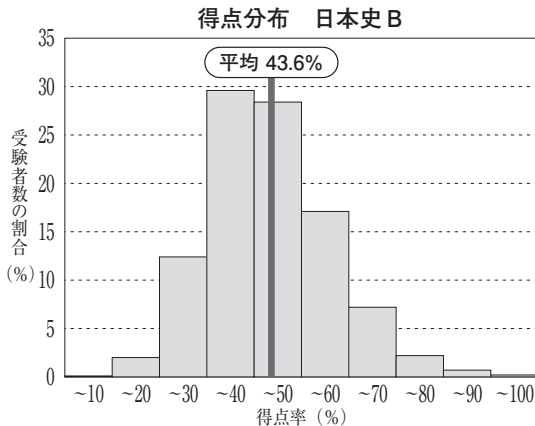
日本史 B

君たちが主役の番だ！ 綿密な学習計画を立てよう！

I. 全体講評

2019年度の1回目となるセンター試験本番レベル模試が、実施された。今、ここから受験生活のスタートを切ったと考え、君たちが描く壮大な「夢」にむかって、突き進んでいこう。

第1回2月センター試験本番レベル模試の平均点は、43.6点と4割台の前半にとどまった。小問36題中、正答率が5割に届かなかったものが24題と、60%以上に及んだ。2月の時期ゆえ、空白となっている未習箇所の時代が多いことがその要因と考えられる。しかし、第1問の原始・古代史分野の問題では、一定の理解度の深さを感じることができ、また、第3問の問6と、第6問の問7では7割未満から7割の正答率を打ち出すことができた。これらのことから、受験者諸君の潜在能力の高さも垣間み



ることができた。全時代をいかに得点源にするか、綿密な戦略を立て大きな壁を乗り越えていこう。「壁」は乗り越えるためにある。

II. 大問別分析

第1問 文字と出版に関する会話

時代と時代の相違点を比較する俯瞰的な視野から学習を進めていこう！

会話の形式で文字と出版の歴史を取り上げた。センター本試・日本史 B 第1問では2019年度も会話文形式で出題された。問題を再読し、問題形式になれる訓練を実行しよう。

第1問の得点率は51.4%と、5割ラインを辛うじて確保した。問5、問6は、広く時代をまたがる視野から問う形式であったが、それぞれ正答率は41.5%、38.5%とふるわなかった。センター試験本試・日本史 B では、時代と時代の相違点などを比較させる問題が頻出である。普段の学習から歴史を俯瞰する姿勢を養っていこう。

第2問 蘇我氏・藤原氏と古代の政治・社会

最頻出テーマで、配点も大きい政治史を得点源としていこう！

蘇我氏・藤原氏を取り上げて、古代の政治・社会を中心に出題した。多くの分野から構成される日本史のなかでも、政治史は最頻出でありその配点も大きいので、しっかりあたっていこう。

第2問の得点率は47.4%と5割を下回った。問1の地図を提示した問題や問4の空欄補充形式の問題は、それぞれ66.5%、62.1%と、しっかり対応できていた。その一方で、問3は正答である④(31.8%)より誤答②(38.0%)を選択した受験者が上回る結果となった。推古朝の時代に推進された政策に関する理解力が不足していた。解答解説を熟読することで、欠如していた知識を習得していこう。

第3問 中世の法と政治・社会

増加傾向にある探究型の問題に対する対策を地道に積み重ねていこう！

中世の法から、中世の政治史を中心とする問題を出題した。中世の法を考察しながら、朝廷と幕府との関係、農村の動向など、政治・社会を捉え直そう。

第3問の得点率は、52.3%と、第1問と同様に5割は確保できた。近世の「刀狩」や戦国時代の「喧嘩両成敗」に関する理解を問うた問6は75.2%と好結果であった。この正答率は全設問にあたる36題の中でもトップの数字で大いに評価したい。問2の史料の読解力を試す問題は、受験者の解答も分散し、33.2%と課題を残す結果となった。読解力をはじめとした探究型の問題は増加傾向にあるので、苦手意識を払拭するよう努めていこう。

第4問 江戸時代の林業・田沼意次の政治

政策や出来事を、その時代の核となる為政者ごとにまとめて、効率的に学習を進めていこう！

江戸時代の林業と、18世紀に江戸幕府が抱えた財政問題を軸として、近世の総合問題を出題した。江戸時代は、将軍ごとにそれぞれの政策や出来事をまとめると理解しやすい。是非、実行してほしい。

第4問の得点率は、34.0%と大問6題中、最下位の結果に終わった。全体的に受験者の解答が割れる傾向が顕著で、個々の歴史に関する知識が不足している状況を予測できる。とくに問3の時代整序問題は、29.5%と3割にも届かず不本意な結果であった。常に広い視野から「時代の経緯」を意識しながら学習を進めていこう。

第5問 国境の画定

全テーマ・全時代を「制覇」する意気込みをもち、網羅性を重視していこう！

国境の画定をテーマに問題文を作成し、明治期の基本的な理解度を確認する問題を出題した。北方領土をはじめとした領土問題は、時事的な観点からも出題されやすい。これを機に理解を深めていこう。

第5問の得点率は、37.9%の結果に終わった。空欄補充形式の問1は51.3%と及第点であったが、問2・問3・問4は2割台～3割台と低調で、近代の教育をテーマとした問4は24.5%にとどまった。未習箇所であったと予想されるが、すべてのテーマ

や時代を網羅するという意気込みで学習にあたっていこう。

第6問 幣原喜重郎と大正・昭和期の日本

今から綿密な学習計画を立てて、戦略的に学習を進捗させていこう！

「幣原喜重郎」の人生をテーマに、大正・昭和期の政治・外交・経済など多方面にわたる歴史を問うた。縦の流れとともに、各テーマの関連性を見出すことで、深く理解していくことを心がけていこう。

第6問の得点率は、39.5%と第5問と同水準であった。問5・問6がそれぞれ27.6%、23.2%と振るわなかった一方で、問7のように69.7%と光るものもあった。とくに現役生の場合、本番の直前になって戦後史の学習に慌ててあたることのないよう、今から綿密な学習計画を立てていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆深い洞察力で過去問にあたる**

今回の模試で、初めてセンター試験形式の問題に挑戦した受験者もいたことだろう。得点力を伸ばすカギとして、まず出題形式をしっかりとつかむことが何よりも大切だ。過去問にあたる際には、正誤問題における誤文がどのような箇所を「誤り」として作成されているのか、といった観点から分析してみよう。

◆すべての模試を受験しよう

東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一テストを含めれば、年6回、実施される。これらの模試をすべて受験すれば、出題形式や難易度をつかめることはもちろんのこと、自らの課題が明確となる。また、「解答解説」は、まさに「知識の宝箱」といえる。これらを上手に活用することで、得点力の向上に役立たせてほしい。

—日本を今一度 せんたくいたし申候—

坂本龍馬